

構造設計標準仕様

適用は 図 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称
建築場所

鶴岡市児童館
山形県鶴岡市

(2) 工事種別

☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築

(3) 構造種別

☒鋼木造 (W)
☐鉄筋コンクリート造 (RC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)

☐補強コンクリートブロック造 (CB)
☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐

☐鉄骨造 (S)
☐

(4) 階 数

地上 1 階

(5) 主要用途

児童館

(6) 屋上付属物

☐広告物
☐煙 突

☐高 架 水 塔
☐キュービクル

☐ton
☐ton

☐
☐

(7) 増築計画

☐有 () ☒無

(8) 付帯工事

☐門扉 ☐機室 ☐ ☐ ☐

(9) 特別な荷重

☐エレベータ
☐倉庫庫前床用

☐人乗 (ロープ式 油圧式)
☐kg/m²

☐リフト
☐受水塔

☐ton
☐ton

☐ホイスト
☐

☐ton

(10) 構造計算ルート

在来軸組構造

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種 類	設計基準強度F _c = kg/cm ²	スランプcm	備 考
捨コンクリート	普通	160	15	
土間コンクリート	普通	210	15	
基礎、基礎梁	普通	210	18	
柱、梁、床、壁	普通	210	18	
	普通			
押えコンクリート	普通、軽量			

(2) コンクリートブロック (CB)

☐A種 ☐B種 ☐C種 厚100 120 150 190

(3) 鉄 筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	☒ SD295A	D10~D16		☒ 重ね継手 ☒
	☐			
	☐ SD345	D19~D25		☐ ガス圧接継手
	☐			
丸 鋼	☐ SR235			☐ 特殊継手
溶接鋼	☐			()

(4) 鉄 骨

	種 類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼 材	☒ SS400 ☐ SM400A		☐ 有 ☒ 無	☒ 0.9F ☐ 1.0F
	☐ STKR400 ☐ STKR490		☐ 有 ☐ 無	☐ 0.9F ☐ 1.0F
	☐ SM490A, B		☐ 有 ☐ 無	☐ 0.9F ☐ 1.0F
	☐ SN400A		☐ 有 ☐ 無	☐ 0.9F ☐ 1.0F

(5) ボルト

☐高力ボルト ☐F10T ☐S8T ☐S10T 認定品 ☐M12 ☐M16 ☐M20 ☐M22

☒普通ボルト (中ボルト)
☒アンカーボルト

SS400 φ=16
φ=
φ=

高力ボルトすべり係数試験 要 ☐要 ☐否
L=640 mm ナット 6ヶ (ナット、ダブル)
L= mm
L= mm

(6) 屋根、床、壁

☐ALC版 厚
断 版 形式 H= 厚
☐チャックプレート 形式 厚
☐キーストーンプレート 形式 厚
☐特殊チャックプレート
☐

3. 地 盤

(1) 地盤調査資料

☐有 ☐敷地内 ☐近隣> ☐ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐無 ☐調査予定 ☐有 ☐無>

(2) 地盤調査計画

☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理検査 ☐平板載荷試験

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土 質	N	標準貫入試験					調査地番
			10	20	30	40	50	
10								○調査地番
20								○位置図
30								○支持地盤、地層及深さについてのコメント
40								○孔内水位 GL - m
50								○近隣データの調査地番と設計地番とは約 m の距離がある ○備考

4. 地業工事

(1) 直接基礎 ☐ベタ基礎 ☒布基礎 ☐独立基礎 試験堀 ☐有 ☒無
深さ GL -0.7 m、支持層一砂礫 長期許容支持力 10 t/φ 載荷試験 ☐有 ☒無

(2) 杭基礎 支持層一 GLー

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ RC ☐ PC ☐ PHC ☐ H鋼 ☐ SC400 ☐ 鋼管 ☐ 摩擦杭	PC ☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 PHC ☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 φ7φ ☐ φ8φ ☐ φ9φ 鋼管 ☐ SS400 ☐ STK400	☐ 打ち込み ☐ 埋込み (セメントミルク工法) ☐ 中置杭大径掘り工法 ☐ (CM工法)	大臣認定第 号 年 月 日
現場所打ち コンクリート杭	コンクリートF _c = 240 セメント量 360 ?/φ 鉄 筋 主 筋 SD 345 HOOP SD 295	☐ オールケーシング ☐ リバースカキュレーション ☐ アースドリル ☐ ミニアース ☐ 手掘り ☐ 機械掘	協成杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書

試験杭 ☐有 ☐無> ☐打ち込み ☐載荷> 本

杭径 (φ)	設計支持力 (t)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

☒コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工にかんしては JASS5 による。
☒セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、監理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で?国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定等の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
測定結果の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試材から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験体 (JASS5 T 603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150?をこえる場合は150?ごとまたは、その諸数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4運用に3本を用いる。
☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄 筋

☒鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。
☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
☒D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☐ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
外観検査 ☐有 ☐無、引張試験 ☐有 ☐無、超音波探傷試験 ☐有 ☐無
☒柱の帯筋 (H00P) の加工方法は、☒H型 (Tガ型) ☐W型 (溶接型) ☐S型 (スパイラル型) とする。
☒コンクリート及び鉄筋の試験は工事管理者の指示による

(3) 型 枠

☒材料 合板厚 12?/φを標準とする。 ☐
☐型枠存置期間

標準 セメントの 1 袋 の 重量 kg	せ き 裏				支 柱			
	基礎、はり、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	基礎、はり、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下
50kg	2	3	4	6	8	17	28	
50~55kg	3	5	6	10	12	25	28	
55kg	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの 圧縮強度		設計基準強度 50?/φ		設計基準強度の 85%		100%		

注) 1片桁ばり、底、スパン9.0?以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注) 6上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事 (仕口等鉄骨)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
☐

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

☒制作工場 ☒制作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書
☒建設省告示第1103号による認定工場 (大臣認定 M グレード登録 A ラック)
☒材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☒普通ボルト ☒特殊ボルト ☐スタッドボルト
☒社内検査表 ☐

(3) 工事管理者が行う検査項目
(☒印の項目について工事監理者の指示による)

☒現寸検査 ☐組立・開先検査 ☒製品検査
☒建方検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること

☐東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第12章)
☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取組要項 (建築構造設計指針第12章)
☒日本建築学会「溶接工作基準、同解説?、?、?、?、?、?、?、?、?」

(5) 接合部の検査

☐溶接部の検査 (検査結果は後日監理者に報告すること)

検 査 箇 所	検 査 方 法	検査結果または検査数			備 考
		社 内	第三者	工事監理者	
☐ 突き合せ溶接部 ☐ ☐	超音波探傷試験	100%	30%	—%	
	外観 (目視) 検査	100%	100%	—%	
	マクロ試験、その他	—個	—個	—個	
第三者検査機関名		CIW認定業者			第三者検査機関とは、建築士、工事監理者または工事施工者が、受入れた検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
第三者検査機関とは、建築士、工事監理者または工事施工者が、受入れた検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

☐高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤錆び状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤錆びは、発生しないままでよい。

☐高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
☐現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

☐

7. 設備関係

☒特記以外の集束通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒設備機器架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5?以上とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

鶴岡市建設部建築課

S01_構造設計標準仕様.dwg
99/06/28 22:27

製図 照 査 特 記

製図 11 年 6 月 工事名 鶴岡市児童館新築工事

縮尺 図面名 構造設計標準仕様 図面番号 S-1